

## 第11回国際グリム賞記念講演会

「グローバルに児童文学を語ろう！

——世界的視野（グローバル）と地域性（ローカル）——」

### Global-Local-Glocal: Children's Literature and Everyday Life

平成19年11月18日（日）に、第11回国際グリム賞授賞式（13:00-13:30）および記念講演会（13:30-15:30）が行われ、約70名の参加がありました。国際グリム賞は、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。第11回受賞者は、児童文学研究における理論派として活躍する優れた研究者であり、ポストコロニアル文学、現代詩、ディスコース分析等を講じ、社会学的、文化論的視点からの研究で学会をリードしている、ジョン・スティーヴンス博士に決定しました。



ジョン・スティーヴンス博士、オーストラリア・マコーリー大学教授

今回の講演では、具体的な絵本を分析しながら、地域の文化が地球規模で圧巻する文化とぶつかったとき、いかに地域性を保ちながら世界の中で生き残っていくのかという問題について考察されました。グローバルとは何か、児童文学研究にグローバルという視点はいかに重要なのかということを考えることのできる、たいへん刺激的な講演でした。





通訳の多田昌美さんと



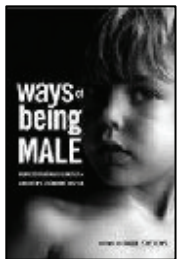
講演の後には、参加者とスティーブンス博士との質疑応答も活発に行われ、より深く、講演内容を理解することができる興味深いひとときとなりました。



ご夫妻で

---

#### ジョン・スティーヴンス博士 (Dr. John Stephens)



1944年オーストラリア生まれ。オーストラリア・マコーリー大学英語学科教授、中国・北京師範大学名誉教授。国際児童文学学会(IRSL)会長(1997-99)、オーストラリア児童文学研究協会会長(2006-)などさまざまな研究学会で要職に就き、会の発展に多大なる貢献をし、国内外において幅広い活動を行っている。

主要著書：『男性になる手段：児童文学と映画における男性性の象徴』(ed., *Ways of Being Male: Representing Masculinities in Children's Literature and Film*, 2002)、『物語を語り直し、文化を構築する---児童文学における伝統的な物語とメタナラティブ』(*Retelling Stories, Framing Culture: Traditional Story and Metanarratives in Children's Literature*, 1998)、『絵本から文学理論まで』(ed., *From Picture Book to Literary Theory*, 1994)、『児童文学における言語とイデオロギー』(*Language and Ideology in Children's Fiction*, 1992)、『記号を読む：テキストにおける感覚と意味』(*Reading the Signs: Sense and Significance in Written Texts*, 1992)等。邦訳書はなし。

---

主催：財団法人大阪国際児童文学館 財団法人金蘭会  
大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会

後援：財団法人大阪府男女共同参画推進財団 日本イギリス児童文学会  
大阪日豪協会 関西日豪協会 南大阪 日本・オーストラリア協会